

第4回「全国栄養経営士のつどい」大阪大会 130人が参集、熱気あふれる大会に



会場いっぱいの参加者の前で開会の挨拶を述べる宮澤靖代表理事



昨年2月の関西支部設立以来、牽引してきた支部長の前島美千枝氏



適塩の実践には、地域における管理栄養士の役割が大きいと語る八田吉氏



西山順博氏は在宅療養サポートチームの実践における管理栄養士の役割について説いた



実践報告後のディスカッションでは山下茂子理事が座長を務めた

地域の栄養ケアを担う管理栄養士の役割とは
大会冒頭、開会の挨拶で立った宮澤靖代表理事は「今年はどうな発表を聞けるか大変楽しみにしています」と栄養経営士の実践報告に対する期待を述べた。続いて関西支部支部長・思温病院の前島美千枝氏が挨拶に立ち、一年前の支部設立

を振り返りつつ、大会のキーワードである「地域」の意義を訴えた。
基調講演では「適塩活動」による重症化予防に向けた地域づくりと管理栄養士に期待される役割」をテーマに八田内科医院理事長の八田吉氏が登壇した。八田氏は冒頭で「腎症重症化予防において

は、減塩ではなく適塩が大切」と提言。腎機能と塩分の関係や、夏場の減塩による危険性を説明したうえで「減塩と降圧強化によって腎臓の血流を減らせば、ろ過量が減ってクレアチニン値は上昇し、急性腎障害のリスクが高まる。管理栄養士はこの仕組みをしっかり理解し、多職種と

連携しながら患者が納得できる指導を実践してほしい」と訴えた。
続く特別講演では西山医院理事長の西山順博氏が「在宅療養サポートチーム(hST)のなかで求められる栄養部門の知識と役割」をテーマに講演を行った。西山氏は在宅患者の病態の評価については国際障害分類(ICD

一般社団法人日本栄養経営実践協会は3月10日(日)、今回で4回目となる「全国栄養経営士のつどい」を武蔵記念ホール(大阪市中央区)で開催した。今大会のテーマは「地域包括ケア時代が求める栄養経営士の役割と活動」重症化予防から医療・介護の連携。全国各地から130名の栄養経営士が参加、栄養経営士の役割と活動について、熱い議論を交わした。

地域の期待に応える 栄養経営士として羽ばたこう

一般社団法人 日本栄養経営実践協会 主催

10年後も生き残れる管理栄養士を目指そう!

第7回「栄養経営士」資格認定試験

2019年6月9日(日)

■受験料：8,000円(税込)
■試験会場(予定)：札幌・仙台・東京・金沢・名古屋・大阪・福岡
■受験資格：管理栄養士(実務経験2年以上)かつ「栄養経営士」資格認定基礎講習修了者

「栄養経営士」資格認定基礎講習は
DVD視聴による受講も可能です!

3枚組、特典映像
「近森病院に学ぶ実践マネジメントのすべて」付き

くわしくは

検索





多職種による特別ディスカッションで座長を務めた吉田貞夫理事

**実践報告者6名が
各自の活動を発表**

午後からは「栄養経営士による実践報告とディスカッション」が2部構成で行われた。今大会から表彰制度審査委員長・古畑公監事が導入され、これまで以上に熱気あふれる実践報告となった。

IDH)ではなく、国際生活機能分類(ICF)で評価していくべきだと主張。「hSTにおける栄養部門の役割は、①住み慣れた場所での緩和ケアとしての栄養管理、②フレイル予防としての栄養管理、③メタボ予防としての栄養管理、の3つ。専門職のほか患者やその家族、行政、ボランティアなど地域全体をhSTと考えて連携し、使命の遂行に努めてほしい」とhSTの意義と管理栄養士への期待について強調した。

注目を集めた。

南港病院栄養科の田貝泉氏は「地域に出て患者の生き方を支えることが当院栄養科の使命」との考えから①通所リハでの出

ある、畿央大学健康科学部健康栄養学科准教授の熊本登司氏は、地域の施設間連携における情報共有について、実際に使用しているサマリーの様式を紹介しながら報告。情報の見える化に向け、自ら地域を回っての実践的な取り組みは大いに

大阪暁明館病院臨床栄養科の笠舞和宏氏は、糖尿病患者の経腸栄養剤の導入によってインスリン使用量の低減を図り、病院経営に貢献したことを報告した。

てんかん専門病院ベアテル栄養科の勝山祥子氏は約7年前から食事内容の改善や管理栄養士の病棟業務の重視等、5つの課題を掲げて取り組み、治療成績や患者満足の向上を図り、病院経営への貢献につなげてきた過程を紹介した。

最後に登壇した老人保健施設こもれびの

谷田病院栄養科の福島宏美氏は自院が地域密着型の長期療養施設であることから、①病院給食における患者満足度のアップ、②地域で訪問栄養指導ができる管理栄養士の育成を目標に掲げ、栄養経営に基づくマネジメントを推進してきたことを報告。結果、残食率が大いに低減して病院経営の貢献につながった

前栄養教室、②地域におけるチームカンファレンスへの参加、③退院後の患者の訪問栄養指導、など地域貢献につなげるための取り組みを実践してきた経緯について説明した。



現場報告発表の受賞者には賞状と、全員に記念品として盾が贈られた

最後に表彰式が行われ、最優秀賞に勝山氏、優秀賞は田貝氏、審査委員長特別賞は福島氏が選ばれた。宮澤靖代

多職種連携では栄養管理が重要な要因に

大会プログラム最後の多職種による特別ディスカッションには、日本栄養経営実践協会の吉田貞夫理事を座長に、パネリストとして関西支部監事で看

里・高浜で栄養リダーを務め、介護支援専門員の資格も持つ山谷恵氏は介護支援専門員としての視点も加えながら、栄養補助食品を用いた給食改善が施設全体に及ぼすメリットについて紹介。今後の活動拡大に向けて大きな可能性を感じさせる発表となった。

第4回「全国栄養経営士のつどい」大阪大会を終えて

今回、大阪の地で開催した「全国栄養経営士のつどい」には、全国から大勢の皆様が集まっていた

日本栄養経営実践協会
宮澤靖代表理事



今大会では、八田告先生、西山順博先生という、地域・在宅の最前線で活躍されている先生方にご登壇いただくことができました。それぞれのお立場からのお話は参加された栄養経営士にとって大変有益だったと思いますし、なによりこのお二人の先生に「栄養の観点から経営を考えていく」という協会の理念や栄養経営士の意義を評価していただいたことは、代表理事として大変喜ばしく、私たちの取り組みが間違っていないということを感じることができました。

また、今大会から栄養経営士による実践報告発表の数を増やし、表彰制度も導入いたしました。6名の方の発表内容は、私が考えていたよりもはるかに高いレベルで成果が出ており、驚いたと同時に非常に嬉しく思っています。今回の発表は、自分1人だけの取り組みではなく、部署として動く意識を持ち、組織全体を巻き込んでいくということが共通のキーワードだったように思います。栄養部門からの発信で病院や施設全体の運用を変えていったということが素晴らしいことにつながったのではないのでしょうか。

実際の現場ではさまざまな障害があって前に進めないと思っている方も多いと思いますが、発表された皆さんも最初から順風満帆に成果を出してきたわけではありません。アイデアや知恵を絞り、試行錯誤し、少しずつでも確実に進んだ結果として、あれだけの組織改革という成果を生んでいる。そうした状況で全国の仲間が成功事例を生み出しているということは、参加された皆さんにとって非常によい刺激となったはずですし、勇気を与えてくれる発表ではなかったかと思っています。

大会中、懇親会などでも会員の皆さんから今現在の職場における課題や取り組みについてお話を伺ったのですが、皆さん「大変だからできない」ではなく、自分なりに一歩踏み出しているという印象がありました。聞いたこと、学んだことをきちんと持ち帰って、自分の現場でできるようにアレンジして少しずつでも実践につなげている。そこが栄養経営士の実行力なのではないかと思っています。この流れをもっと大きくしていくことで、栄養経営士の価値もさらに大きなものになっていくと確信しています。

看護師、管理栄養士、作業療法士、管理薬剤師がそろった特別ディスカッション

護師の浅田宗隆氏(松下記念病院)と、同じく関西支部副支部長で管理栄養士の梶原克美氏(近畿大学医学部附属病院)、作業療法士の金元隆氏(南港病院)、薬剤師の真野有紀氏(上六薬局)が参加。地域包括ケアにおける多職種連携のテーマで議論した。浅田氏は看取り目的で入院した患者が栄養管理で会話可能な状態まで回復した事例を紹介し、また、真野氏は栄養状態が薬効に大きく影響することから、管理栄養士との連携の必要性を強調した。

表理事は「期待をはるかに超えるレベルの高い内容ばかりだった」と発表者を称え、さらに「どうしても外せない貴重な発表だった」との吉田理事の強い意向から臨時に吉田貞夫特別賞が創設され、笠舞氏が受賞した。

のアウトカムに迫るものであり、栄養管理の成果をもって施設経営に貢献するという栄養経営士の使命に直結する内容となった。

表彰後は懇親会が開かれ、多数の栄養経営士が参加。新たな出会いに絆を深め、お互いの活躍を誓って会は終了した。

■協賛企業一覧

アイドウ株式会社、アサヒグループ食品株式会社、イーエヌ大塚製薬株式会社、株式会社上野印刷所、株式会社おぎそ、株式会社ケイ・エスピー、サラヤ株式会社、日清オイログループ株式会社、株式会社日新写植、株式会社日本医療企画、一般社団法人日本医療経営実践協会、一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会、能登印刷株式会社、株式会社ファイン、フジ産業株式会社、株式会社フーズリンク、株式会社ヘルシーネットワーク、株式会社マステック、株式会社宮源、株式会社ワンダーシェフ(50音順)

第4回全国栄養経営士のつどい

栄養経営士による実践報告・パネルディスカッション① 現場報告・発表者からのメッセージ

●報告テーマ
「大阪暁明館病院の経営について」
「経管栄養の使用について」

社会福祉法人大阪暁明館
大阪暁明館病院
臨床栄養科 係長
笠舞和宏



過去の「全国経営栄養士のつどい」は遠方で開催されていたため参加できず、今回初めて参加させていただきました。つどいでは、顔がわかる人から遠方から参加されている方まで、熱い思いを持った栄養経営士に出会うことができました。

当院はM&Aにより2010年に伯鳳会グループに加入し、そこから経営を意識するようになりました。以前の法人は赤字が膨れ上がり職員の士気も下がっていましたが、経営が改善したことで職員も明るくなっており



発表後の質疑応答で、参加者からの質問に答える報告者たち

医療はサービス業であり利益を確保するのはどうかと言われる人がいます。しかし、医療業も利益ができて初めて設備投資ができ、医療の質が上がることで患者さんへ還元できます。

他の方々の発表も栄養経営士として色々な視点があり、多角的に経営を考えるきっかけになって、大変勉強になりました。

栄養経営士のつどいは同志の集まりです。で、温かい雰囲気があります。学会発表は敷居が高いと思っている人がいたら、まずはここで発表してほしいと思います。

●報告テーマ
「栄養管理業務を患者ケア全般と地域へと繋げるために」

医療法人ベテール
てんかん専門病院
ベテール 栄養科
勝山祥子



今回、実践報告をさせていただいたことは、これまでの仕事を振り返り、整理するという意味でも非常にいい経験となりました。

発表を通して伝えなかったのは、栄養部門が受け身では、患者の回復が遅れてしまうという事です。同じ勤務時間・同じ給料なのであれば楽な方がよい、という考えが蔓延していた栄養科の雰囲気を変えるには、長い時間と労力を費やしました。栄養経営士の考え方である「選択と集中」を基に、勇気を持って一歩踏み出して良かったと思います。

また、最優秀賞という素晴らしい賞までいただき、明日への活力になりました。

大会を通して、栄養管理にはゴールはない、一人ではできないということのを再認識しました。各職種の得意分野をうまく発揮できるようなチームを形成することが今後の課題であると思います。そのためにも、栄養の枠に留まらず、広い視点で必要なことを見極め、よりよい患者サービスに繋げられるように努めたいと思います。

本当にありがとうございました。

●報告テーマ
「地域での栄養情報共有の取り組み」

畿央大学 健康科学部
健康栄養学科 准教授
熊本登司子



今回「地域での栄養

情報共有の取り組み」について、実践活動報告をさせていただきま

全体のテーマが「地域包括ケア時代が求める栄養経営士の役割と活動」であったことと、継続した栄養管理や栄養情報の共有が重要であるにもかかわらず、まだまだ推進されていない状況であるため、少しでも参考になればという思いでの発表でした。

座長の眞壁昇理事からはクラウドの利用やIT化についてのご助言をいただき、これからの課題も見えてきたように思います。ま



発表者の補足説明をする眞壁昇理事と座長の山下理事



パネルディスカッションでは手を挙げる宮澤代表理事の姿も

た、懇親会でも多くの方から栄養サマリーの様式を教えてほしい等のお声をかけていただき、皆さんの関心の高さを実感したのと同じに発表させていたでいてよかったという思いでいっぱいです。

他に5名の方が発表されましたが、皆さん素晴らしい取り組みをされておられ、栄養経営士のパワーを感じる発表ばかりでした。このような発表の機会をぜひ続けていただき、良い刺激を受けながら皆で成長できればと思っています。

第4回全国栄養経営士のつどい 大阪大会 参加者アンケートより 「参加してよかった!」参加者の生の声をご紹介します!

- ◎講演内容が大変勉強になった。経営士の方の発表も大変参考になり勇気付けられた。ディスカッションでは他職種の方のホンネがうかがえてよかった。
- ◎これまで参加させていただいたセミナー・講演とはまったく異なり、自分にとって必要な考え方、自分に欠けていた視点に気づくことができました。夢中で最後まで聞き入ってしまいました。貴重な会に参加でき、また管理栄養士としての誇りを強く感じる事ができ、大変ありがたかった。
- ◎大阪らしい笑いのある大会でよかった。大阪の栄養経営士はこれから盛り上がっていくのではないかと。講演や発表を聞いて、今後も自分に何ができるのかを考えながら栄養経営士として貢献していきたいと改めて思わせてくれる大会だった。
- ◎実践報告はどなたのものも参考になる、興味ある部分があった。会場からの質問が積極的な活発な会で非常に楽しかった。
- ◎特別養護老人ホームで勤務しているが病院の取り組みや在宅の活動を知る機会となり、多方面で活躍し挑戦されている栄養経営士の世界も非常に感銘を受けた。病院は別、特別養護老人ホーム以外関係ない、という枠をはずし、より広い視野

- を持とうと改めて感じた。
- ◎栄養経営士を知る前は老健の栄養士にできることなんて少ないと思い込んでいたが、経営士の考え方を学び、今では老健の栄養士だからこそできること、他職種との近さが武器になると考えられるようになった。参加者の皆様の熱い思いにふれることができ、自分もできるところから始めていきたいと思った。
- ◎実践報告は皆さんが積極的に栄養部門でさまざまな取り組みをされていることがわかり刺激を受け感銘を受けた。自施設でも取り組めるところから実践していきたい。
- ◎ポリファーマシーに悩む人が多いので、多職種ディスカッションで、それを減らすようとしている薬剤師さんの話を初めて聞いた。このような薬剤師が増えてほしい。
- ◎最初は来るつもりがなかったが、来てみると大変有意義だった。参加されている方の意識が高く、多職種の方の仕事内容、考え方、経験が聞けてとてもよかった。
- ◎午前中の講演で学ぶことも多くあり、午後のディスカッションでは多くの病院・施設の取り組みを聞くことができ大変勉強になった。

★このほかにも多数の声をいただきました。皆様ありがとうございました。

第4回全国栄養経営士のつどい

栄養経営士による実践報告・パネルディスカッション②
現場報告・発表者からのメッセージ

●報告テーマ
「栄養経営士の果たす役割」

社会医療法人三宝会
南港病院 栄養科科长

田貝 泉



今回のテーマが「地域包括ケア時代が求める栄養経営士の役割と活動」とわかった瞬間に、なんと少しでも当院の取り組みを全国の栄養経営士の方々に伝えし、ご意見をいただきたいと思い、エントリーいたしました。当初は簡単に考えていたのですが、実際には抄録登録やスライド提出など、予想よりハードルは高かったです。皆様が一番お伝えしたかったのは、目先のコスト管理や栄養部門の利益だけを考えるのではなく、施設全体の方向性を見据え貢献していくことの重要性です。当院は地域に根差

した病院を目指しており、国の方針も病院から在宅へ大きくシフト

してきている現在、栄養科は真っ先に地域に出て行きました。入院直後から退院を見据えての栄養管理、必要な方への訪問栄養指導の

アプローチなど、常に患者様の視点に立った活動を行っています。

当日は、たくさんの方に聞いていただけて本当にうれしかったです。休憩時間や懇親会で、全国から来られた熱意溢れる方々とお話しできたことはとても有益でした。改めて、栄養経営士って素晴らしいと感じました。今



和気あいあいとした空気の中、ときには笑いも起こった質疑応答

度は、ぜひあなたが発表してくださいね。

●報告テーマ
「地域で必要とされる栄養士になるために、給食マネジメントからの取り組み」

特定医療法人谷田会谷田病院 栄養科 主任

福島 宏美



今回は、給食を委託会社から直営運用への転換を軸としたマネジメントを発表させていただきました。給食に関しては、栄養科全員が患者様の立場を想像（創造）し、業務を行っていることが成果につながっていると思っています。

当院の給食マネジメントは、地域包括ケアシステムのなかで、地域・在宅でも活躍できる管理栄養士・栄養士の育成を同時に行っています。慢性期の病院では、目の前にいる患者様が「治療」と「生

活・QOLの向上」、

どちらに軸足が置かれているか、そこを判断し、多職種と共同して適切な栄養管理を行う力が求められます。それを、日常業務の中で自然に身につけて欲しいと考えています。

今回の受賞は、栄養科スタッフ全員でいただいたものです。受賞報告後、より一層積極的に業務に励んでいます。マネジメントは現在も継続中です。今後とも病院から地域へ活動の場を広げ、いつも患者様・ご家族に寄り添える管理栄養士・栄養士の育成を継続していきます。



実践報告②では大谷幸子理事が発表後に感想を述べた

最後になりましたが、このような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございます。

●報告テーマ
「多職種連携でみんなが笑顔になれる栄養管理を目指して」

医療法人碧会老人保健施設こもれびの里・高浜 栄養リーダー

山谷 恵



「全国栄養経営士のつどい 大阪大会」で発表の機会をいただき、ありがとうございます。初参加で初めての発表に、不安と緊張で一杯でした。発表させていただいたことで「やればできる!!」と自分自身の成長と自信になりました。

管理栄養士と介護支援専門員との兼務というメリットを最大限に活かし、地域に出て、新しいことに挑戦できればと思っています。

今後、栄養部門だけでなく施設全体の収支に目を向け、多職種と連携しながら日々の業務を行っていきたいと考えています。

大会後に行われた懇親会では、前島支部長や理事の先生方と話をすることができ、多くのアドバイスをいただくことができました。

また、全国の栄養経営士の方々と繋がりを持つことができ、大変貴重な場となりました。今回の発表を機に、今後も発表の機会があれば挑戦していきたいと思っています。



最後、発表者には会場から惜しみない拍手が贈られた

大阪大会 フォトギャラリー



支部NEWS

九州支部

北海道支部

【九州支部】 セミナーレポート

医師への提案にはガイドラインや論文など根拠の提示が重要

第7回「管理栄養士のための基礎医学講座・実践編」

九州支部では、2月16日(土)、株式会社日本医療企画と合同で第7回「管理栄養士のための基礎医学講座・実践編」を開催しました。管理栄養士に必要な基礎医学を学び、多職種との連携を円滑にするための講座で、九州各県から参加者が集まり、講義とグループワークを通じて理解を深めました。

今行っていることが正しいと信じ込まず
常にエビデンスを探す習慣を

同講座はこれまで「臨床検査の基礎知識」や「消化器疾患」などのテーマで実施しており、今回は「医師とのコミュニケーション」がテーマ。九州女子大学家政学部栄養学科教授で医師の三浦公志郎氏が講師を務めました。

三浦氏は、「多くの医師が管理栄養士に求めているのは、根拠(エビデンス)に基づいた栄養学の知識。ガイドラインや論文などのエビデンスを示し、提案してほしい」と話しました。また、



講師の三浦公志郎氏の話に熱心に聞く参加者たち

「患者のため」という思いが自分本位になっていないかの確認も重要だと指摘。同じ効果が見込めるのであれば、コストの安い方を選択し医師に提案するなど、経営的な視点でもエビデンスが重要だと語り掛けました。

「エビデンスを重ねると常識は変わる。以前、創傷は消毒するのが一般的だったが、現在では消毒処置の意義は少ないと考えられている。同様に、今行っていることが正しいと信じ込まず、根拠のない治療をしていないか、常にエビデンスを探す習慣をつけてほしい。また、エビデンスを複数持つことが、情報の信頼性を高める」と三浦氏。情報の信頼性は、根拠となる科学論文などの情報源を明示しているかが判断基準になると指摘しました。

患者と対話を重ね、ベストな選択肢を
共に考えるパートナーに

症例検討のグループワークでは、治療方針の根拠となる論文の検索方法を三浦氏が指導。論文検索サイトのPubMedを使用し、カルシウム摂取と骨粗しょう症との関連性について検索しました。そして、関連性を指摘するもの、否定するものとそれぞれ複数の論文があることを確認し、思い込みの危険性を訴えました。

三浦氏は、「エビデンスに基づいた栄養学(エビデンス・ベースト・ニュートリション=EBN)」の

重要性を理解したうえで、さらに「物語に基づいた医療(ナラティブ・ベイスト・メディシン=NBM)」の実践も心掛けてほしいと指摘しました。最後に「エビデンスがあるからとガイドラインにあてはめることが、すべて患者の満足につながるとは限らない。患者がどのような生活を送り、どのような食事を好んできたかなどを聞き、共通認識をもって治療を進めるNBMを大切にしてほしい。治療の選択は、最終的には患者が行うもの。管理栄養士は一方的に知識を押し付けるのではなく、患者との対話によりベストな選択肢を共に考えるパートナーになってほしい」と締めくくりました。

「管理栄養士のための基礎医学講座」は、勉強し直したいけれど、どこから手をつけて良いのかわからない方や学び方がわからない方に最適な講座です。今後も開催を企画していますので、ぜひご参加ください。



活発な話し合いのあと、グループごとに発表が行われた

【北海道支部】 学会レポート

児玉北海道支部支部長が登壇「在宅の栄養管理もチームで実践を！」

第38回食事療法学会

「在宅において管理栄養士に何ができるか～チーム医療の一員としての役割～」

2019年3月2日(土)・3日(日)、公益社団法人日本栄養士会医療事業部は「第38回食事療法学会」を札幌市内で開催しました。シンポジウムには、当協会の児玉佳之北海道支部支部長(医療法人社団佳生会こだま在宅内科緩和ケアクリニック理事長・院長)が講師兼座長として登壇し、在宅における管理栄養士の役割について現状と期待を語りました。

在宅におけるNST活動で
患者のQOL向上をめざしたい

児玉佳之の支部長は、冒頭で、「在宅における管理栄養士は、チーム医療に携わる一員として患者さんのQOL向上をめざす栄養管理に取り組んでほしい」と述べ、チーム医療の1つとして在宅でNSTを実践する有効性について触れました。



シンポジウムでは歯科医師や看護師、理学療法士、管理栄養士からも発表があった

一方、在宅NSTの課題として、診療報酬上の評価がないことや、訪問栄養食事指導の必要性に対する患者・家族の理解不足、多事業所が一堂に会して定期カンファレンスを開催する難しさ——といった点を指摘しました。

そうしたなか、児玉支部長が理事長・院長を務める、こだま在宅内科緩和ケアクリニックが、2018年に診療所では国内初となるNST稼働施設に認定されたことを紹介。医師や看護師、管理栄養士、薬剤師、医事課の職種からなる在宅NSTを構築し、主に同院における患者の約7割となる終末期がん患者を対象に、活動している事例を発表しました。

あわせて、在宅患者に対するNST介入の評価として、食欲改善やQOL向上につながった研究結果も提示しながら、「他のクリニックにおいても、在宅医療の質向上につながる在宅NST介入のアウトカムを積み上げ、その必要性を発信してほしい」と述べました。

地域住民への栄養教育は
管理栄養士の責務

さらに児玉支部長は、在宅NSTにおいて管理栄養士が果たす役割として、医療職に対する栄養指導や他事業所との連携、訪問栄養食事指導件数の増

加はもちろん、特に重要なのが地域住民に対する栄養教育であると言及。「例えば、いくら病院で嚥下障害に対する食事指導が行われても、自宅に戻って実践されなければ意味がない。地域住民に対して、元気なうちから栄養の大切さ、口腔ケアやサルコペニアなどの知識をつけてもらうよう支援してほしい」と強調しました。

あわせて、病院・施設に所属する管理栄養士に対しても「在宅視点の栄養指導」を意識する必要性とともに、退院カンファレンスの参加等を通じた在宅医療との情報共有の重要性を説きました。

最後に改めて、チーム医療を通じた在宅の食支援を強調した児玉支部長。「今後は医療をベースとしたNST活動で在宅の食を支え、チームで地域を守っていききたい」と、締めくくりました。



チーム医療としての在宅NSTの重要性を訴える児玉北海道支部長

栄養経営士が知っておきたい!

イベント 情報掲示板

栄養経営士に求められるのは、さまざまな情報へのアンテナを張り、自身の知識・スキルを常にアップデートしておくこと。そのための貴重な機会である、全国で開催されるイベント情報を、支部の研究会を中心に掲載します。

学会情報

第73回日本栄養・食糧学会大会

栄養科学・食糧科学の先端的な学術成果を深く討議するとともに、現代の「食」をめぐる多様な課題の解決に向けた革新的な着想や取り組みについて幅広く取り上げます。

- 日 程：2019年5月17日(金)・18日(土)・19日(日)
- プログラム：特別講演、教育講演、シンポジウム、一般講演、ランチョンセミナー、市民公開講座等を予定
- 参加費：【学会会員】12,000円 【一般】15,000円
- 会 場：5月17日
静岡市清水文化会館マリナート(静岡市清水区島崎町214)
- 5月18日・19日
静岡県立大学(静岡市駿河区谷田52-1)
- お問い合わせ：静岡県立大学 食品栄養科学部 栄養生理学研究室
第73回日本栄養・食糧学会大会 大会事務局
TEL: 054-264-5533

学会情報

第62回日本糖尿病学会年次学術集会

「DM4.0」をメインテーマに開催し、第11回アジア糖尿病学会(The 11th Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes(AASD))(23日、24日)と第6回肝臓と糖尿病・代謝研究会(25日)も同時に開催されます。

- 日 程：2019年5月23日(木)・24日(金)・25日(土)
- プログラム：会長講演、特別講演、受賞講演、シンポジウム、教育講演、企業展示等を予定
- 受講料 【学会会員】15,000円 【一般】18,000円
- 会 場：仙台国際センター(仙台市青葉区青葉山無番地)
東北大学百周年記念会館 川内萩ホール(仙台市青葉区川内40)ほか
- お問い合わせ：日本コンベンションサービス株式会社 内
第62回日本糖尿病学会年次学術集会 運営準備室
TEL:03-3508-1214

協会事務局より

2019年4月期限の会員の皆さまへ 【年度会費納入および資格更新のご案内】

本年4月に年度会費・会員資格の有効期限を迎える会員の皆さま、お手続きはお済みでしょうか? 支払期限は3月19日(火)となっておりますが、まだ事務局では対応いたしております。ご確認およびお手続きを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 対 象 者：年度会費・会員資格の有効期限が「2019年4月19日」の個人正会員、栄養経営サポーター
- 年度会費：【個人正会員】10,000円
【栄養経営サポーター】8,000円
- 資格更新：【個人正会員】15,000円(年度会費込み)
※申請書類・課題をご提出ください。
【栄養経営サポーター】13,000円(年度会費込み)
- お問い合わせ：一般社団法人日本栄養経営実践協会
TEL:03-5289-7021

セミナー情報

第24回J-BREATH講演会～よりよい呼吸のために～ COPDの栄養療法

呼吸のためにエネルギー消費が増え、体重の減少を起こしてしまいがちなCOPD患者に向けた高エネルギー栄養補助食品の活用方法を紹介、講師として当協会の宮澤靖代表理事が登壇されます。

- 日 程：2019年5月12日(日) 14:30～16:00
- 講 師：宮澤靖氏(東京医科大学病院 栄養管理科 科長／日本栄養経営実践協会 代表理事)
- 参加費：無料
- 会 場：ステーションコンファレンス東京 サビアタワー6階602
(東京都千代田区丸の内1-7-12)
- 定 員：130名(当協会会員限定、先着順)
- 申し込み・お問い合わせ：株式会社やまとよ
seminar@yamatooyo-s.jp
※お申し込みの際は、お名前(フルネーム)・日本栄養経営実践協会の認定番号・メールアドレスを明記のうえ上記のメールアドレスにお送りください。

「栄養経営士」資格認定基礎講習

資格認定試験の受験前に、「栄養経営」という考え方を理解するために受講いただく講習です。本講習の受講が、栄養経営士資格認定試験の受験要件となります。

DVD視聴による受講も可能!
☆3枚組、特典映像付き☆

栄養経営士も会員価格で聴講できます!

【こんな方におすすめ】

- ・DVD受講だったので、会場受講をしてみたい
- ・栄養経営士の方向性を、改めて確認したい
- ・栄養経営士として、もう一度、話を聞きたい ……

講習内容

オリエンテーション。
「栄養経営士」に必要な能力について

1. 院内・施設内における栄養部門の現状分析
2. 目標設定能力と達成に向けた実践的アプローチ
3. 業務の質を高めるためのアウトカム分析
4. 「栄養経営士」に求められる教育と人事能力
5. 適材適所の組織マネジメント
6. 病能の把握能力

- 講 師：宮澤 靖 代表理事ほか
- 受講料(会場、DVDとも)：8,000円(税込)
- 時 間：10:00～17:00(予定)

2019年度 日程決定!

会 場	日 程
東 京	5月11日(土)
名古屋	6月2日(日)
大 阪	7月7日(日)
仙 台	9月1日(日)
帯 広	9月15日(日)
福 岡	9月22日(日)